

第53号

平成30年 9 月

発行 高知厚生病院
広報委員会

◆ 高知厚生病院グループの理念・基本方針 ◆

理 念

敬天愛人

基本方針

1. 地域の皆さまの尊厳を護り、心の通う医療と介護を実践します。
2. 自己研鑽に努め、自らと組織の発展向上を目指します。
3. 地域連携を進め、効率的に働きます。
4. 地球環境に留意し、災害に備えます。

死と向き合うことは難しい？

ホスピスのころ (3)

院長 山口 龍彦



自分の死について考えていますか？

皆さんは、死ぬことをどう思っておられるでしょうか。日常では、他人の死については考える事もありますが、ご自分の死については考えないのではないのでしょうか。考えたいと思わないと思います。それが、普通かもしれません。

しかし、人間である限り誰であっても何らかの形で必ず「その時」がやって来ることになっています。それがいつかは誰も分からないのですが、できれば不慮の事故のようなものではなく「愛する人たちに看取られて」と表現されるようなものであって欲しいですね。

昔、日本のサムライたちは義、礼、勇、誠、仁、名誉といった目に見えないものの価値を重んじ、そのためにはどのような死に方があるのか（どのような生き方があるのか）真剣に考えていたといわれていますが、今は終活を真剣に考えている一部の方を除き、どのように安楽に長生きできるかを考える時代になっているようです。

スピリチュアルケア

がんや死に至る重篤な病を患っておられる方のための施設であり、人生を「その時」まで生き抜くことを応援する場である「ホスピス」の大切な役割のひとつは「死の恐怖」をも和らげて差し上げる事です。この働きを「スピリチュアルケア」と呼んでいます。（専門的にはスピリチュアルケアはもう少し広い意味に使われますけれども）

二十年程前よりがん告知が普通に行われるようになりました。それまで、がん告知が行われてこなかった理由の一つは「人は自分の死の恐怖に耐えられないに違いない。自分が死ぬと判れば、希望を無くしてしまって、まともに生きられないに違いない。」というものでした。

ところが、いざ「がん告知」が当たり前になされるようになると、以前の死の恐怖への思いやりはどこへ行ったのかと思うぐらいに「余命告知」までなされるようになっていきます。

でもやっぱり死は怖い

ふた昔前の患者への思いやりは「怖がるようなことがらは知らせない」だったのですが、がん告知をするようになってからの思いやりは「死の恐怖は存在しないものとして接しよう」という態度です。これは思いやりなのか、患者さんに接する人の自己防衛なのかはわからないところがあると思います。そのため、患者さんはだれにも「死が怖い」と打ち明けることができません。

恐怖心が蓋をされたまま心の底にあると、人はどうなるのでしょうか。認知症が進んだり、せん妄といわれる状態になったり、うつ状態になったりする人が多いようです。死の恐怖がその人の活力や生命力を奪っていきます。多くの方にとっては、やはり死は怖いものだと思います。

死の恐怖からの解放を！

では、どうすれば死の恐怖から自由になれるのでしょうか。だれが死の恐怖から救ってくれるのでしょうか。

今まで沢山の方のご臨終を見させて頂きましたが、しっかりとした信仰をお持ちの方は死を恐れることがありませんでした。宗教の形はどうあれ、死が全ての終わりではないと信じておられる方、魂の存在を信じておられる方は死の恐怖から解放され自由でした。その事実から思うのですが、日頃から正しい宗教に親しみ、人智を越えるものに対する畏敬の心を持つ事はほんとうに大切なことなのです。正しい死生観が死の恐怖に打ち勝つための最大の武器なのです。

臨床宗教師という言葉を知っておられるでしょうか？お坊さんや牧師さんなどプロの宗教家の人達がスピリチュアルケアの研修を終えて、患者と接する資格を得た人をこう呼んでいます。また、スピリチュアルケア師という資格をお持ちのかたもいます。死の恐怖から自由になりたいと感じたときは遠慮なく緩和ケアスタッフにお伝えいただければと思います。

研修報告

日本ホスピス緩和ケア協会 2018 年度年次大会に参加して 地域連携・緩和ケア支援室 乾 亜矢

7月14日、15日に東京ビックサイト会議棟にて、日本ホスピス緩和ケア協会の年次大会に参加させていただきました。全国の緩和ケア病棟や緩和ケアチームのある病院、緩和ケアを行う診療所等の会員が集まります。総会や講演、パネルディスカッション、分科会、特別企画と2日間で盛りだくさんの内容になっていました。私は、他職種チームカンファレンス～患者にとって最善の治療方針について他職種で合意形成する～という分科会に参加しました。人生の最終段階における医療・ケアについて本人の意思が確認できない、推定出来ない場合において、家族や多職種チームで、「患者さんにとって最善」の治療方針を判断しなければならない事があります。厚労省から、人生の最終段階における医療・ケアの意志決定プロセスに関するガイドラインは示されていますが、実際にどのように立場、価値観の違う職種で検討し合意形成を行っていくのか、今回は具体的に学ぶことが出来ました。短い時間でしたが、これからも自分自身で深めて行きたいと思います。





新入職員紹介

平成30年3月～6月



濱田 浩司

所属：老健
職種：介護福祉士
趣味：釣り、読書
好きな言葉：特になし



坂東 奈美

所属：通所リハ
職種：介護員
趣味：DVD鑑賞
好きな言葉：一期一会



筒井 由香

所属：看多機
職種：看護師
趣味：ハンドメイド雑貨、
バレー、ランニング
好きな言葉：明日は明日の風が
吹く



濱田 梓佐

所属：栄養課
職種：調理師
趣味：散歩
好きな言葉：人に優しく自分に
厳しく



宮口 加奈子

所属：一般病棟
職種：看護師
趣味：音楽鑑賞
好きな言葉：ありがとう



西村 八千代

所属：グループホーム
職種：介護員
趣味：ツーリング
好きな言葉：棚からぼたもち



原 有希

所属：通所リハ
職種：介護福祉士
趣味：体を動かすこと
好きな言葉：やればできる



篠原 雄太郎

所属：通所リハ
職種：介護福祉士
趣味：料理、テレビゲーム、
スポーツ観戦
好きな言葉：ありがとう



中岡 友子

所属：居宅介護支援
職種：介護支援専門員
趣味：ランチ巡り
好きな言葉：なんくるないさ



片岡 千恵子

所属：外来
職種：看護師
趣味：映画鑑賞
好きな言葉：ありがとう



長岡 孝子

所属：医事課
職種：事務員
趣味：旅行
好きな言葉：感謝



中石 明日香

所属：緩和ケア病棟
職種：看護師
趣味：音楽鑑賞
好きな言葉：特になし

行事報告

緩和ケア病棟 夏祭り

緩和ケア病棟 新谷 知佳

8月9日に緩和ケア病棟で夏祭りを開催しました。たこ焼き、お好み焼き、わた菓子、かき氷を学生さんも加わって作ってくれました。患者様、御家族の方には好評で、大変喜んでくれました。いつもと違う、はちきれんばかりの笑顔と楽しそうにされている表情は職員にとっても励みになります。



職場体験中学生、ふれあい看護体験高校生を受け入れて

看護部長 岩本 泉

平成30年7月12日に土佐女子中学校の生徒さん3名が職場体験学習に、また8月7日には毎年開催されている高知県看護協会主催の「ふれあい看護体験」の高校生が3名それぞれ来られました。全員が将来、医療関係の仕事をめざしているとのことでした。知的好奇心にあふれたまなざしに私たちも良い刺激を受けました。今後も継続して受け入れていきたいと思ひます。



職場体験 中学生



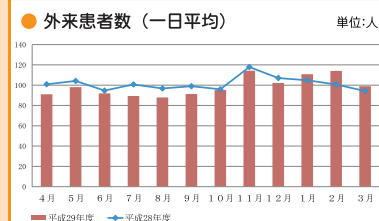
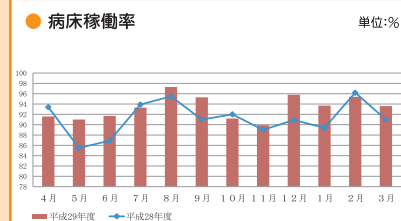
ふれあい看護体験 高校生

診療実績報告

平成30年4月～6月

外来患者延数	6,838
(内) 新外来患者数	189
入院患者延数(老健含む)	5,933
病床利用率(老健含む)	92%
訪問看護ステーション利用者延数	1,269

平成28年・29年度



当院は平成15年9月22日より日本医療機能評価機構認定病院となっております。



◆ 特定非営利法人日本緩和医療学会より認定研修施設として認定されました



◆ 厚生労働省より医師の卒後臨床研修施設の認定を受けました

編集後記

夏休みに娘が大阪の爬虫類カフェに行ってきたそうです。エー、思いかも知れませんが、なんでも、興味がある事を研究している姿は好感がもてます。とはいえ、近頃の子供たちの趣味や遊びについていけない今日この頃です。A. I



高知厚生病院

〒781-8121 高知市葛島1丁目9-50 Tel.088-882-6205 Fax.088-883-1655
ホームページ <http://www.kochi-koseihp.jp>

- 介護老人保健施設こうせい ■ 通所リハビリテーションこうせい
Tel.088-882-6205
- 訪問看護ステーションこうせい ■ 高知厚生病院健診センター
Tel・Fax.088-885-6714
- 居宅介護支援事業所こうせい
Tel・Fax.088-885-5779

医療法人 山口会

こうせい

〒781-8121 高知市葛島2丁目5-12 Tel.088-802-5530 Fax.088-802-5531

- 看護小規模多機能型居宅介護こうせい ■ グループホームこうせい